

第1回 奈良県外国人観光客交流館あり方検討委員会議事概要

- 1 日 時： 令和7年6月6日（金）10:00～12:00
- 2 場 所： 奈良県外国人観光客交流館（猿沢イン）
- 3 出席者：（委員）北口委員、下山委員、中山委員、野澤委員、二神委員
（事務局）奈良県観光局 山中局長、吉岡次長
奈良県観光戦略課 辻課長 他
- 4 公開・非公開の別： 公開
- 5 議事
 - （1）開会の挨拶 山中局長
 - （2）委員長の選任 委員の互選により、中山委員を委員長に選出
 - （3）奈良県外国人観光客交流館（猿沢イン）のあり方検討について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 意見交換

＜委員からの主な発言は、次のとおり＞

【外国人観光客交流館の存続について】

- ・施設内を視察したが、バックヤードは老朽化の観点よりこのまま維持することは厳しい印象がある。
- ・県が民間に外国人観光客交流館を譲渡または県で当館を解体し更地化したうえで譲渡等、赤字を出さない活用方法を委員会で議論する必要がある。
- ・財政制約の中で、外国人観光客交流館の運営が毎年赤字の状況にあるのは合理的とはいえない。
- ・外国人観光客交流館が果たしてきた役割は終わったと考える。奈良公園周辺エリアに立地していることは、県の観光施策の観点で、貴重な場所として位置付けられる。
- ・外国人観光客交流館を改修して活用することについて、施設の客室部分が個室になっており活用方法が限られることなどを踏まえると、施設を解体し新たな機能を検

討すべき。

- ・外国人観光客交流館の収支が長年赤字となっている中で、安価な宿泊施設や観光案内所機能、文化体験機能といった公共性をもった機能を今後も行政が現状のまま継続すべきではない。

【観光施策への意見について】

- ・外国人観光客交流館の立地は、観光客を迎え入れる最初の場所としての潜在的可能性を秘めている。観光客のリピーターを促すために、現代のニーズを踏まえ、行政または官民連携によってできることを検討していく必要がある。
- ・外国人観光客交流館は、観光インフラのプラットフォームとして貴重な場所。観光客に対して、施設間をつなぐモビリティ等のプラットフォームが必要。
- ・県としての奈良公園周辺エリアの観光戦略の中で、外国人観光客交流館の活用について、公共性を持たせながら県としてできることの視点を踏まえて検討していくべき。
- ・奈良公園バスターミナルは、観光客が立ち寄りやすい立地であることを踏まえ、外国人観光客交流館との連携を検討していく視点があると良いと思う
- ・地元の方と観光客が交流する接点を作りながら、観光等に関する新たな情報発信をしていく機能を議論する必要がある。
- ・オーバーツーリズムの影響もあるため、地域住民と交流したい観光客、観光客と交流したくない地域住民の双方の満足度を考える必要がある。一方で、当館周辺は観光客と昔から居住しているため、受入体質はあるとみている。
- ・この建物からの眺望は良いので何らかの形で活かしたい。今後、どのような形で広く観光に活かしていけるのか検討が必要。例えばホテルを整備したとしても宿泊者に限定されることは望ましくないと思う。
- ・外国人観光客交流館にて、公共性を持った活用を検討する場合は、奈良公園へ組み入れて、日常的な部分から交流へ繋げるアプローチや建物の容積率緩和、官民連携のスキーム等を委員会で議論していくべき。

【今後の検討事項について】

- ・新たな導入機能について議論していく。

- ・ 県の観光戦略について、委員会内で認識を一致させる必要がある。県の観光課題や観光施策の方向性について提示してほしい。
- ・ 奈良公園の範囲が分かる図面を第２回委員会時に提示してほしい。

次回 外国人観光客交流館の活用に伴う具体的な導入機能について